



當り苦みなり下二向
 下向を備ふ千世後
 終極の地を命あり借
 受くる場あり先う苦み
 在活する物事あり
 たる故に中し尤も
 餘り直道に原を置
 士のめき張之旧民に向
 自後川後而終る
 其の一哩七分目と
 名語りと故に康保中
 滅の張之旧民大に悦び
 見ゆの持師をし布後
 せり見しもの事地切
 以并たも張之旧民の部
 の吾史に終る後終る
 其のし七分目と日人
 布後するなりと故に
 を肥やまへき餘り
 に入ると日人の
 布後するを喜ぶ事之友
 一と知ふ一哩十下月
 前十二分目と持師
 舊史有史の金一ヶの
 餘地ありをし布居
 たり舊史有史其張
 之旧民と我事者居る
 其の右の交ありし
 其の右の交ありし
 告し物事ありし
 やとあせし
 備ありしに居地
 と採り奉天尻
 奉天尻市を元所
 もこの解釈を採り
 北陸中陸南陸
 地は居地利あり
 居るも城内に
 し居るものあり
 居る居地中
 天津子に運物令地
 地所の終るもの大
 成りし居る地は
 居る居地は好地位

匹田銳金書簡 大隈重信宛

明治40年8月1日

早稲田大学図書館蔵/Waseda University Library

I14-B301(1) -4

